

研究名：急性腎障害に対して持続的血液浄化療法を要した小児患者における、体液貯留と腎機能回復の関連に関する後方視的検討

1．研究の目的

急性腎障害において、体液過剰が死亡率および慢性腎障害への移行率を上昇させることが成人を対象とした複数の研究で報告されています。小児においても体液過剰が死亡率を上昇させることが報告されていますが、腎機能の回復に対する影響についてはまだはっきりとは分かっていません。この研究は透析導入時の体液過剰、透析中の水分管理が腎機能の回復に及ぼす影響について検討することで、最適な透析導入のタイミングおよび水分管理目標を明らかにすることが目的です。この調査は国立成育医療研究センターの倫理審査委員会の承認を得て行われます。

2．研究の方法

研究対象：当センターで2014年6月～2020年11月の期間に急性腎障害に対して持続的血液浄化療法を要した18歳以下の症例

研究対象期間：倫理審査委員会承認後～2023年3月31日

研究方法：診療録の診療情報を用いて後方視的に検討を行います。血液浄化療法導入時の体重当たりの体液過剰率（%Fluid Overload）、導入後7日間での最大の体液過剰率（peak %Fluid Overload）、導入後7日間の累積体液過剰量（cumulative fluid balance）を収集し、血液浄化療法離脱までの期間との関連を検討します。

3．研究に用いる情報の種類

診療録に記載された診療情報：上記のほか、年齢、性別、基礎疾患、術前の全身状態（PCPC分類）、入室時の重症度スコア（PIM2、SOFA score）、PICU入室理由、血液浄化の導入理由（溢水、電解質上、アシドーシス、尿毒症）、ICU入室日数、昇圧剤使用の有無、人工呼吸器日数、転帰など

4．情報の公表

この研究の概要については、国立成育医療研究センターのホームページに公開されます。研究内容は学会発表や学术论文の形で公表する予定です。

5．研究実施機関

6 . お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2022年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 麻酔科 清水薫

住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

電話：03-3416-0181（内線：7379）

研究責任者：

国立成育医療研究センター 麻酔科 清水 薫（責任者氏名）